

印旛沼流域水循環健全化会議 第10回委員会 議事要旨

日 時：平成18年7月28日（金） 13：30～17:00

場 所：千葉県庁 中庁舎10階 大会議室



1.第1回委員会議事要旨

(1) 平成18年度のスケジュール

(質疑応答なし)

(2) 第9回委員会での主な指摘事項と対応方針

- ・ 放置水田の増加について、その原因について分析して、委員会で提示していただきたい。原因が分からなければ、我々もどう対応すべきかわからない。（印旛沼広域環境研究会 太田委員）
⇒農林部局の方では、ある程度分析を行っているのではないかと。事務局には、原因についてのヒアリングを行うことから始めていただきたい。（虫明委員長）

(3) 緊急行動計画の目標達成状況について

- ・ 農林水産部では、ちばエコ農業と食育の両方を推進しているはずだが、食育にエコ的な考え方がほとんど入っていないのはなぜか。（印旛沼広域環境研究会 太田委員）
⇒ちばエコ農業については、生産者の経済行動の中で、コストをかけつつも、販売においてメリットを出すことで、拡大を進めるものである。一方、食育については、千葉県では、国の食育基本法ができる以前から取り組んでいる。食育の中でちばエコ農業の考えを取り込んでいるわけではないが、環境に優しい農業も推進するべきと考えている。生産者に対する啓発と、ちばエコ農業で育った作物を買っていただく方々への応援的な取り組みとして、農林水産部安全農業推進課で、食育とちばエコ農業の総括的な取り組みを行っている。（県農林水産部 室田委員）
⇒生産現場でそれを反映させていただきたい。（印旛沼広域環境研究会 太田委員）
⇒印旛沼の流域でどう推進するかということも含めて、お願いしたい。（虫明委員長）
- ・ 63施策の実施事項の評価については、資料を持ち帰って確認した後、担当課と協議させていただきたいと考えている。（佐倉印旛沼ネットワークの会 金山委員）
- ・ 進捗管理の評価について、推測だけでなく、より詰めた形での評価の方法も検討していただきたい。（虫明委員長）
- ・ 印旛沼流域での下水道の進捗率と、千葉県全体の進捗率について、下水道部課と連携してデータを整理していただきたい。（虫明委員長）
⇒下水道の普及や印旛沼流域に関連するものについては、後日データを整理する。（県国土整備部 佐伯委員）

(4) みためし行動の実施状況について

1) 浸透系/農地系/生態系/企業系/生活系/学び系/冬期湛水/アダプト

- ・ 浸透系について、浸透マスは、地下水涵養の他に、防災にもつながるのではないかと考えている。鹿島川流域であまり浸透対策が行われていないのはなぜか。（印旛沼広域環境研究会 太

田委員)

⇒加賀清水の取り組みを象徴的に行い、ここでの成果を強調しながら取り組みを進める事はわかりやすい。ただし、市川市で行われているような浸透対策を条例化するような視点に立った行動も並行してやっていただきたい。(虫明委員長)

⇒まず、加賀清水でみためし行動を行い、市街地の中でどの程度湧水が復活するのか、皆で一緒にモニタリングを実施して、認識を深めている途上だと考えている。千葉県では、開発に伴う調節池の底を浸透性のものにして開発調整池をつくるように指導も行っている。また、雨水浸透マス設置の条例化については、今年度から関係市町村と勉強会を開く予定である。市町村が自主的に取り組んでいただければと考えている。(事務局 鶴岡)

- ・ 農地系の取り組みでは、畑の施肥量の削減を行っているが、水田は行わないのか。(印旛沼広域環境研究会 太田委員)

⇒農業の対策としては、ちばエコ農業、施肥削減、農薬削減等色々あるが、農地系みためし行動では、畑に着目している。水田については、今後、検討させていただきたいと考えている。(事務局 宇野)

⇒水田に関しては、施肥量の削減技術が進み、印旛沼流域では側条施肥がほとんどを占めており、随分と施肥量が削減されているので、これ以上の削減はできないであろうレベルにきている。もう一つは、あまり肥料をやると品質が悪くなるという側面からも施肥量の削減技術がかなり検討されて普及している。以上より、水田についてはほぼ検討する余地がないのではないかと考える。(藤井委員)

⇒施肥量を削減しながら、良質な味のいい米づくりを進めている。さらに施肥量を削減したものを、ちばエコ農業として進めている。ちばエコ農業全体では、なかなか増えていないが、その中で水田は増えている方である。JAでも、施肥量を10%か20%削減して栽培し、「もつと安心米」として売り出している。(県農林水産部 室田委員)

- ・ 農林水産部に協力いただいて、事務局で、印旛沼周辺の水田での施肥の状況について、データを整理すべきである。(虫明委員長)

- ・ みためし農地系では、参加農家が4戸になっているが、それ以外の農家の栽培作物と施肥量の把握は実施しているのか。(藤井委員)

⇒その他の6戸についても、施肥量のモニタリング等を実施している。(事務局 宇野)

- ・ 冬期湛水の取り組みでは、生物多様性、事業性、水利権について、どのように考えているのか？(印旛沼広域環境研究会 太田委員)

⇒全国的に冬水田んぼは進められている。千葉県でも、これから、生物多様性保全をしっかりとやっていこうという動きがあるが、水田の生物多様性を保全する力は大きい。事業性については、米づくりの生産性という問題といかに調和していくかということ、データをもって検証していく。また、水田は条件によっては、浄化機能を有したり汚染原因になる。水や生物の問題だけではなく、色々な面で検討し、全面的に農業サイドに協力していただいている。水利権については、水を供給するパイプラインの老朽化に伴い、全面的に換えていく費用をどうするかが問題である。また、生物に関しては空中散布の問題もある。農薬、肥料、生物、生命、水に関する問題をトータルに解析していただきたい。(中村委員)

⇒水利権については、冬季湛水を大々的に行えば問題が発生すると考えている。みためし行動では、印旛沼土地改良区と協議し、小規模で湛水を行っている。(事務局 鶴岡)

- ・ 印旛沼連携ステーションはみためし的に進めていくのか。また、総合的なまとめをどのようにするのか。

⇒みためし的に進めていく。どこがそれを担うかは鋭意検討している。(本橋委員)

- ・ 市町村みためし行動も、印旛沼連携ステーションに移してはどうか。(虫明委員長)

- ・ それぞれのみためし行動を進める中で、いろいろな課題が出てきており、またあらゆる事が関わってきており、色々と考えていかなければならない。誰が主体的に行っていくのか、どこがコーディネートするのか等を考える時期ではないか。(堀田委員)
⇒みんなの意見を聞きながら議論をしていていただきたい。(虫明委員長)
- ・ 印旛沼連携ステーションについて、環境団体連合会として、事務局に提案を行いたい。(印旛沼広域環境研究会 太田委員)
- ・ みためし企業系について、提案された企業の評価等をどういう方針で行うのか。(佐倉印旛沼ネットワークの会 金山委員)
⇒行政上の正式な評価は商工労働部で行う。事務局は、自主的にモニタリングを行うことを考えている。(事務局 鶴岡)
- ・ みためし学び系について、柏井小学校でも80時間の環境学習を始めており、また目的も同じである。今年で3年目になる。モデル校3校だけではなく、学校を挙げて環境学習を行っているところを候補として検討しなくてよいのか。8/30にも環境学習を行うので講師を招いてはどうか。(印旛野菜いかだの会 美島委員)
⇒他にも色々な学校で行っている。また、県やNPO等も行っている。この実態を把握し、候補を検討することは重要である。また、色々な人材をプールしていくことも重要である。今後、取り組んでいく事だと考えている。(堀田委員)
- ・ 委員会の決められた時間内では議論しきれないので、次の会議では、用紙を用意して質問や意見を集めて、次に委員会に反映させるようにしてはどうか。(虫明委員長)

2) 市町村みためし

- ・ できる限り、新しい事を市町村みためしとしてやっていただきたい。(佐倉印旛沼ネットワークの会 金山委員)
- ・ 人口や土地利用、汚水処理形態等の基礎データは重要であるので、整理しておく必要がある。(虫明委員長)
- ・ 各市町村がよく取り組んでいると思う。開発指導要綱の中に、雨水浸透マスの設置や高度処理型合併処理浄化槽の設置を位置づけていただきたい。(印旛沼広域環境研究会 太田委員)
- ・ 浸透対策の条例化も含めて勉強会を行うことについて、その他の検討事項として、単独浄化槽を利用しながら高度処理するような仕組みも研究段階ではあるので、このようなことも含めていろいろな実質的なことを検討していただきたい。(虫明委員長)

(5) 印旛沼わいわい会議について

- ・ 開催時期については、参加者の都合を考えて決めなければならない。行政主導になってしまっており、厳しい問いかけが出ているので検討していただきたい。(印旛沼広域環境研究会 太田委員)
⇒準備会を通して検討したい。(事務局 宇野)
⇒開催日決定の経緯については、昨年度に秋の休日は外すようにとの要望があったため、今年は平日にしている。(事務局 鶴岡)
- ・ 最初の仕掛けづくりについては行政主導でいいが、市民主導に移行していかなくてはいけない。(虫明委員長)

(6) 水質改善技術検討会からの報告

- ・ 印旛沼の水質を改善していくためには、沼内の対策だけでなく、あわせて流域の負荷削減も行

うことが重要である。（虫明委員長）

(7) その他

- ・ 韓国 SBS で放送された印旛沼のビデオについては、次回委員会で紹介する。（虫明委員長）
- ・ 湖沼水質保全計画と緊急行動計画の関係について、以前に文書をいただいているが、優先性、重要性、スケジュール、項目等についての説明を加えたものをいただきたい。（佐倉印旛沼ネットワークワーカの会 金山委員）
- ・ 北千葉道路・成田新高速鉄道について、ミティゲーションを確立してから着工するはずであったのではないか。（中村委員）
⇒代替措置として、植生態施工を発注しており、HP 等で紹介していきたい。（県道路計画課 佐藤）
- ・ 誰が確認を行い、ミティゲーションできるという見通しが立ったのか。（中村委員）
⇒国土交通大臣から着工前にミティゲーションを行うように言われており、これから行う予定である。
- ・ 検討全体について、印旛沼の水質形成機構など、色々なデータが出てきている。検討の交通整理が必要である。（原委員）
- ・ 印旛沼の WEB ページでの情報の整備はまだ不十分である。例えば、今回委員会資料にある水質形成機構のデータなども掲載していただきたい。環境省のプロジェクトで、大阪大学が進めている淀川流域圏プロジェクトでは、WEB-GIS で色々な情報が公開されている。次のステップとして、気にかけて取り組んでいただきたい。（原委員）
⇒しっかりと取り組んでいきたい。（事務局 鶴岡）
⇒県ではやはり取り組みにくい。どこか大学であれば取り組んでいけるのではないか。（虫明委員）
⇒組織ができれば、取り組んでいけると考える。（原委員）
⇒原委員にも、色々と考えていただきたい。（虫明委員長）

－ 以上 －